



THE WORLD BANK

Working for a World
Free of Poverty

世界銀行プレスリリース

News Release No. 2007/58/DEC

コンタクト:

ワシントン: Merrell Tuck、携帯 (202) 415

1775 mtuckprimdahl@worldbank.org

TV/Radio: Cynthia Case (202) 473-6287 ccase@worldbank.org

東京: 平井智子

(81-3) 3597-6650 thirai@worldbank.org

世界経済の混乱で途上国への資本フローに劇的な影響

韓国、ソウル、2009年6月22日 – 世界的な景気後退と金融市場の混乱の中、途上国への純民間資本フローは、過去最高だった2007年の1.2兆ドルから、2008年は7070億ドルへと大きく落ち込んだ。2009年の国際資本フローはさらに減少し、3630億ドルとなる見通しだ。

「世界開発金融 2009: 世界的な回復の工程」は、世界がこれまでよりも低成長を覚悟し、金融システムの監督をより厳格で効果的に行う時代に入ったと警告している。途上国の成長率は、2007年の8.1%、2008年の5.9%から今年はずか 1.2%にとどまる見通しである。中国とインドを除く途上国の国内総生産(GDP)はマイナス1.6%となり、失業と貧困者数の増加が続く見通しである。世界経済も収縮し、2009年のGDPはマイナス2.9%となる見通しだ。

世界のGDP成長率は、2010年に2%、2011年には3.2%へと回復すると見込まれる。途上国の成長率はこれを上回り、危機前の高い水準にまでは及ばないものの、2010年に4.4%、2011年には5.7%となる見通しである。

世銀チーフ・エコノミスト兼開発経済担当上級副総裁ジャスティン・リンは、「銀行システム再編の必要性に加え、先進国での拡張的な政策にも限度があることから、世界規模での景気回復のモメンタムが維持できない」との見通しを示した。「途上国は、国際的な資金支援などにより国内投資の急回復が図られれば、世界経済の回復を牽引する鍵となろう」

同報告は、主要国における異例の政策対応がシステム全体の崩壊を阻止したと指摘する一方で、危機は現在も進行中であり、世界各国が協調することが重要であると強調している。

「経済危機の第二波を避けるため、早急に金融セクター改革と最貧困国支援に取り組むべきだ」と、世銀開発見通しグループのハンス・ティマー局長は述べた。

世界の一体化と国際金融における民間の役割増大は大きな利益ももたらしたが、他方で混乱の範囲も広がっている。今日、途上国は民間資本フローに大きく依存しているため、これまで成長の原動力であった大企業や銀行の業績悪化に伴って、民間の資金調達が困難になったことにより打撃を受けている。

「多くの企業は輸出需要の急落と同時に、自国通貨の下落で外貨ベースの収益が減るため、外貨建て負債の返済に苦戦するだろう」と、開発見通しグループ国際金融担当マネージャで本報告の主任執筆者であるマンスール・ダイラミは述べている。

同報告は、多くの国で、国際収支困難のリスクと、企業債務整理問題に特に注意が必要だと警告している。世界的な回復の工程には、細部に配慮した改革を迅速に実施し、政府主導の金融システムから民間セクター主導の銀行システムへと徐々に移行させる必要があると同報告は指摘している。さらに、先進国における

大幅なマネーサプライ増加を修正するとともに、中期的には財政赤字を削減し、債務返済の持続可能性を保ち、1970年代や1980年代のような債務危機の再発を防ぐ必要がある。

途上各地域の展望

東アジア・大洋州地域 高所得国と密接な貿易関係を持つこの地域は、投資減少、輸出低下、工業生産減少により、今回の危機の直撃を受けた。この地域の今年の成長率は5%と見込まれているが、一部の国ではGDPのマイナス成長が予測されている。中国の大規模な景気刺激策と富裕国への輸出需要の穏やかな回復を反映して、2009年後半から2010年にかけて地域全体で景気の反転が期待される。ただし回復のペースは緩やかで、同地域のGDP成長率は2010年に6.6%、2011年に7.8%の見通しである。

ヨーロッパ・中央アジア地域 域内の多くの国が、国際収支の不均衡に悩む中で今回の危機に見舞われたため、その影響を最も深刻に被っている。大幅な経常収支赤字と国内経済の過熱に苦しんでいた時に危機が起きたため、資本フローが突然逆流し、輸出需要が低下した影響を大きく受けている。同地域のGDPは2009年にマイナス4.7%となった後、2010年には約1.6%へと回復する見通しだ。

ラテンアメリカ・カリブ海地域 同地域は、財政、通貨、金融ファンダメンタルズが以前より強化された状態で今回の危機を迎えた。それでも一次産品価格の下落や外国資金の急激な引き揚げといった影響を受けている。変動相場制を採用している国々の多くは、株式市場の混乱にもかかわらず、当初のショックを概ね吸収し、システム全体に問題が及ばずに済んでいる。同地域のGDPは2009年に2.3%のマイナス成長、2010年には2%のプラス成長が見込まれている。

中東・北アフリカ地域 他の地域に比べると、信用収縮の影響をそれほど直接的には被らなかったものの、株式市場や不動産市場は重圧を受けており、域内途上国は、域内高所得国の深刻な不況の影響を受けて苦しんでいる。2009年、これら高所得国やヨーロッパの先進国からの送金、サービス部門の輸出収入、海外直接投資(FDI)は減少し、所得減少を招くとみられる。2009年の成長率は3.1%へと半減する見通しで、その後、2010年に3.8%、2011年には4.6%と緩やかな回復が予想されている。同地域における成長減速のペースが他の地域と比べて穏やかだったことと、石油の需要と価格が低水準で推移すると見られるためだ。

南アジア地域 資本流入が大幅に低下し、投資は停滞している。GDPは2008年の6.1%から2009年には4.6%に落ち込むとみられるが、2010年には7%、2011年には7.8%と伸びるだろう。しかし、世界的な不況が長期化し、財政圧力が高まる可能性や財政赤字の大幅拡大など、長期的な成長を脅かす要因もある。

サブサハラ・アフリカ地域 海外での需要冷え込み、輸出価格の急落、送金や観光収入の落ち込み、さらに、FDIを中心とする資本流入の激減により、深刻な打撃を受けている。今年の成長率は、過去3年間の平均5.7%から大幅に減速し1%に留まり、2010年には3.7%と予測されている。送金と政府開発援助の急激な減少は同地域のリスクとも言える。これは域内の多くの国では、政府開発援助が予算を支えていることと、送金が貧困の重要な緩衝材となっているためだ。

--- ### ---

ジャーナリストの方々は、解禁前に下記のオンライン・ブリーフィング・センター(OMBC)より報告の全文をご覧ください。
OMBCにアクセスするパスワードをまだ取得されていない方は、下記ウェブサイトでお申込みくださ

います。<http://media.worldbank.org/>

同報告は解禁後に以下のウェブサイトでご覧いただけます。<http://www.worldbank.org/gdf2009>

関連資料は下記のウェブサイトをご覧ください。www.worldbank.org/globaloutlook